
令和4年 第3回定例会

一般質問 大橋 武司議員

令和4年 9月14日

▶質問

大田区議会公明党の大橋武司です。

初めに、SDGsの見える化についてお伺いをいたします。

私の尊敬する著名な方のお一人に、環境や人権に対する長年の貢献が認められ、アフリカの女性として、また環境分野で初のノーベル平和賞を受賞された、世界で「もったいない」を広め活動しておられた、今は亡きワンガリ・マータイ博士がいらっしゃいます。マータイ博士は、日本に訪れたとき、日本語の「もったいない」という言葉に、全てのものに対して慈しみや感謝の念を持って接してきた日本古来の価値観がその言葉に込められていることにとっても感動し、環境を守る世界共通語として「MOTTAINAI」を世界に広められました。

私は、議員1年生のとき、この「もったいない」をテーマに、食品ロス、食品リサイクル、環境問題の改善に向けて取り組むため、理事者の方々にも何度もお聞きしながら、あらゆる勉強をし、区内全小中学校の給食の残渣調査や、大田区には東京スーパーエコタウンである城南島の食品リサイクル工場にお伺いし、全工程を実際に見させていただいたり、廃棄物ゼロを目指して取り組まれている北九州市エコタウンセンターにお伺いするなど行い、議会にも取り上げていくに当たり、代表質問に立たれる先輩議員にお願いをし、質問に取り上げていただくなど、これまでも取り組んでまいりました。現在、我が会派の椿 真一議員も積極的に食品ロスに向けて、素晴らしい取組をされております。

私は、これまでSDGsについて何度となく様々な角度で提案、要望し、取り上げてまいりましたが、区民の皆様がより身近に具体的に感じ、地球にやさしい「もったいない」を基本にしたSDGsの見える化への取組につながる提案をしたいと思っております。内容は、新聞やメディアでも取り上げられておりますが、簡単に申しますと、安全でまだおいしく食べられるのに破棄されてしまう食品を、非対面、非接触、スマホなどで商品を選び、キャッシュレスで購入できる仕組みのフードロス無人販売機、スリムなものですが、本庁や公共施設に設置してみたいという提案であります。

値段は賞味期限が近づくほど安くなり、喜ばれる商品も多く、大田区産の商品を入れることもできます。この取組は食品ロス削減につながり、破棄するものが減るため、CO2削減となり、そのCO2排出量削減量を算出して可視化できるようにもなっております。この環境配慮の取組は、現在、

環境省が行っている食とくらしの「グリーンライフ・ポイント」推進事業に認められ、エコ活動を通じたSDGs推進につながり、購入ごとにポイントがたまり、そのたまったポイントで商品と交換することもできます。予算に関しましては、例えば、SDGsに取り組まれている企業等が、宣伝効果が大きいこともあり、スポンサーになっていただいた場合は、区は逆に設置費用が歳入として入る仕組みとなっております。また、無人販売機の設置において、行政の人員負担は一切ありません。

現在、新潟県庁や茨城県庁、京都府などの自治体、そして大学や駅など全国で設置が進められております。大きなSDGsへの取組の中の一つではございますが、ぜひこうした公民連携の手法を活用しながら、区民の皆様が、よりSDGsへの取組を身近に具体的に感じられて取り組めるよう、見える形で進めていただくことを提案、要望いたしますが、いかがでしょうか。お答え願います。

もし大田区が取り組んだ場合、23区の自治体では初のフードロス削減へ向けた新しい取組になり、SDGsに取り組む大田区を広く発信することにもつながり、区民の意識向上にもつながります。ぜひよろしく願いをいたします。

次に、働く姿の写真展開催についてお伺いをいたします。

働くといっても、生活のため、夢の実現のため、社会の役に立ちたい、自分の能力を発揮したい生きがいのためなど、目的は人それぞれであります。社会情勢も影響し、働き方もどんどん変化しておりますが、実際、区内事業者の方々と接して状況をお伺いすると、いまだかつてない困難を乗り越えようと悩み、苦しみ、日々ご努力をされていることが痛いほど伝わってくる現状に、行政のあらゆる支援が必要とともに、私は、今このときだからこそ、一生懸命に働く方々へエールを送る取組、そして子どもや若い方々が希望を持って進んでいける取組が必要ではないかと思えます。

そこで、働く姿の写真展の開催を提案、要望いたします。対象は区内在住・在勤の方で、子どもから大人まで参加でき、職業も町工場や医療・介護従事者、会社員、美容師、調理師、空港で働く方や清掃員、警備員、農業、漁業、植木屋、大工、工事現場で働く方、ケーキ屋、お花屋、学校の先生、交通機関の運転士など、ありとあらゆる方を対象に働く方を撮影し、実際の写真やウェブなどを活用して写真展を行うことを提案いたします。間違いなく、撮影する方も撮影される方も、社内やご家族、ご近隣の方など、わくわくし、笑顔で元気になり、働くことへの誇り、生きがいを改めて感じ、また働く姿の写真を見て、子どもたちや若い方々が職種への興味や夢など生まれる可能性も十分にあり、効果は大きいと思えます。ぜひ、元気な大田区へと進んでいくために、働く姿の写真展の開催を要望いたしますが、いかがでしょうか。お答え願います。

次に、産業プラザ1階に開設されましたPiOフロントについてお伺いをいたします。

今年の4月、本区の産業振興の拠点であります産業プラザPiOの最前線となる1階入り口に、区内企業のあらゆるご相談に乗り、経営基盤強化、適切な各種支援情報を提供するほか、専門的助言を行い、都や国等の支援機関窓口への橋渡しも円滑に行う、伴走型の経営支援窓口PiOフ

フロントが新設されました。この取組は全国においてもとても注目に値する取組であることは間違いなく、高く評価するとともに、要望してまいりました私もとてもうれしく、心から感謝申し上げます。

そこでお伺いいたします。開設からまだ数か月ですが、お問合せ状況、稼働状況などはいかがでしょうか。お答えください。

また、私が思うには、このPiOフロント、多くの方々に、様々な面で、より一層安心してご利用いただくため、産業プラザPiOのメインとなる出入口に設置できたのはとても大切で、素晴らしいことです。しかし、産業振興協会のホームページを見ても、区のホームページで産業振興課を見ても全く存在が分からず、産業振興協会のホームページの事業のご案内の中から様々選択をしながらアクセスをしていくと、最終的に相談に行くところがPiOフロントだったという感じで、せっかくフロントと名称がついているにもかかわらず、どこにも表になっていない状況です。区内事業者の方々に聞きしても、多くの方が知らないのが現状であります。

現在、世界情勢の影響により、各事業者は困難な状況に立ち向かい、果敢に戦われております。だからこそ、もっとこのPiOフロントの存在を広く知らせていくことが大切ではないでしょうか。また、区は積極的に区内事業者のサポートをしていることを伝えていくことも重要と思います。ぜひ、伴走型の経営支援窓口PiOフロントの存在を、もっとフロントらしく広くお知らせし、区内事業者のサポート、区内産業の発展に向けて活躍されることを期待と要望いたしますが、いかがでしょうか。お答え願います。

次に、区民が学べる取組についてお伺いをいたします。

私は、郷土博物館で現在開催されております大勾玉展に足を運びました。区長のご挨拶の中にもございましたけれども、この大勾玉展に足を運びました。今年、大田区にある宝萊山古墳は東京都の史跡に指定されてから70周年、多摩川台公園古墳展示室は開室30周年を迎え、大田区ではヒスイ製の勾玉が4点出土しておりますが、今回の特別展では、勾玉のルーツに迫るため、全国各地から約1500点の勾玉を一堂に集められ、研究史上重要な勾玉や、本邦初公開となる勾玉を展示されており、実際に特別展を見学させていただき、私は、これほどまでに見応えのある素晴らしい内容の展示会を、ここ大田区で見られることに心から感動いたしました。これは考古学ファンのみならず、多くの方々が間違いなく感動される内容です。

また、観覧者には記念の勾玉カードのプレゼント、手づくりのフォトスポットや勾玉クッションがあったり、大田区の歴史を知ることができるクイズに参加するとオリジナルのすてきな缶バッジがもらえるなど、子どもから大人まで、最後まで楽しく学べる企画となっており、素晴らしい取組であります。大勾玉展はネット上でも大変話題になっており、館長をはじめ学芸員、関係者の皆様のご尽力を高く評価いたします。

本区では、川瀬巴水特別展、川端龍子展も来館者が想定より多く、勝海舟生誕200周年記念ク

ラウドファンディングも目標を上回る状況とお聞きしており、区民の文化意識はとても高いと感じます。我々の暮らす大田区は、全国、世界にも発信できる多くの文化・歴史・芸術の遺産があり、もっと教育においても、ほかいろいろなところで波及していいはずの宝がたくさんございます。そうしたすばらしい可能性や魅力を活かし、発信することにより、区民の郷土愛も深まり、多くの方々に大田区のすばらしい魅力を知ってもらえるのではないのでしょうか。他自治体においても、その地の文化・歴史・芸術のアピールは、駅に着いた途端、ボーンと目に入ってくるような、駅に着いた途端、おっというインパクトのある取組や、市民の心の中にも誇りとなっております。

また、今回、学ぶということと言いますと、環境計画課が子どもたちの夏休みの期間に本庁2階で行いました環境啓発コーナーの学べる企画も大切な取組と感じました。環境に関するテーマを掲げ、普及啓発パネル展や動画を放映し、展示内容に関連するチラシやグッズなどを配布され、実際私も訪れた際に、親子連れの方が写真を撮り、パネルを見ながら勉強されておられました。所管部局は、環境問題改善への普及啓発に向けて、ご多用の中ご準備されたことを高く評価いたします。

そこでお伺いをいたします。文化振興への取組は区民の心を豊かにし、生活の質の向上、まちの活性化にもつながります。ぜひ、文化施設など、大田区にあるすばらしい文化・歴史・芸術など可能性をもっと花開くよう活かす取組が必要であり、また、学べる企画なども含め、計画的にストーリーを持って、魅力ある取組を要望いたしますが、区の見解をお答え願います。

最後に、大田区から平和への発信をについてお伺いをいたします。

ロシアがウクライナに軍事侵攻を始めてから半年が過ぎ、核の脅威も高まる中、多くの市民の尊い命が失われ、市民は国外へ避難を余儀なくされております。UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)は、世界各地で迫害や紛争、暴力、人権侵害が続き、ロシアの軍事侵攻でウクライナから逃れた人などを合わせると、世界全体の難民や避難民は、今年の5月以降、1億人を超えたことを明らかにしました。毎年、過去最多を更新し続けています。世界各地で起きている迫害や紛争、またミャンマーでも市民への迫害や人権侵害が続いているなど、各所で緊張を強いられ、緊迫した状況が発生しております。今後、異常気象による災害や貧困などが背景に、食料不足やエネルギー価格の高騰が続けば、状況がさらに悪化するおそれがあります。

大田区郷土博物館の歴史資料を見ますと、太平洋戦争において、今から約78年前の昭和19年11月からの東京大空襲において、私たちが住む大田区域においても空襲被害は記録が残されており、そのうち最大のもは翌年の4月15・16日の空襲で、戦略爆撃機B29が200機、大田区上空から約3時間にわたり波状攻撃、その結果、大森・蒲田両区は大きな被害を受け、5万2000戸の家屋、蒲田区役所、蒲田警察署、国民学校13校をはじめ、その他多数の工場施設など一瞬のうちに焼失した記録があります。その結果、昭和17年に60万8228人を数えた大森区、

蒲田区の人口も、終戦直後の昭和20年8月には、空襲と疎開の影響から18万4371人まで減少、当時を知る大田区民の方にお話をお伺いすると、ほとんど焼け野原で何もなくなってしまい、それはもう大変な状況だったとお聞きいたします。

本区は、昭和59年の終戦記念日である8月15日に、世界の恒久平和と人類の永遠の繁栄を願い、平和都市宣言を行いました。そして、これまでも愛し子の建立や、8月15日に、今年もコロナ禍で花火の祭典は中止となりましたが、区民プラザで開催されました平和の記念式典では、世界情勢の悪化や沖縄県の本土復帰50周年など、改めて平和を見つめ直す機会として、ウクライナご出身のカテリーナさんによるウクライナ民謡音楽バンドウーラ演奏、また沖縄伝統芸能エイサー演舞など、平和へのメッセージを込めた内容に高く評価をいたします。

そこで提案ですが、本区においても、戦争の悲惨さや苦しさを体現しており、平和都市宣言を行っている大田区です。いかに戦争が悲惨で恐ろしいことなのか、なぜ戦争を起こしてはいけないのか、これからの未来を託す子どもたち、そして若い方々、区民にとって、知らない戦争を分かりやすく伝えるため、私たちが住んでいる大田区における戦争当時の被害状況、暮らしの状況なども交え、世界で懸念されている核兵器に対しても、いかなる理由があっても決して使用してはならない、二度と繰り返してはならない、尊い命の大切さ、戦争は起こしてはならないこと、ユネスコ憲章の前文には、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」とあるとおり、戦争は人の心が起こしてしまうこと、また、取り返しのつかない惨事になることを伝えるとともに、同時に世界に向けた平和へのメッセージを発信していく使命が大田区にはあると思います。松原大田区長におかれましては、まさに戦中戦後をご経験され、生き抜いてこられた世代であり、平和へ向けてのご行動の影響はとても大きなものがございます。ぜひ今だからこそ、大田区から平和に向けた行動をさらに取り組んでいただくことを要望いたしますが、お答え願います。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

＜回答＞

▶齋藤企画経営部長

私からは、SDGsの見える化に関するご質問にお答えいたします。

SDGsは2030年までに達成すべき国際目標でございます。実現していくためには、自治体行政の責任と役割が重要であることはもとより、区民の皆様、民間事業者等、多様な主体が一丸となって連携・協力しながら取り組んでいく必要がございます。そのためには、区民の皆様がよりSDGsを身近に感じられるような、分かりやすい形でSDGsの見える化していくとともに、公民連携の手法を取り入れながら、公民一体となって効果的にSDGsへの理解を促進していくことが重要でございます。

フードロス対策は、SDGsの目標の12番目にある「つくる責任つかう責任」に係る、区民にとって分かりやすい取組の一つでございます。区では、食品ロス削減プロジェクトとして、フードドライブの推進をはじめとする様々な食品ロス対策を行っております。お話にあった「もったいない」という精神も大変共感できるものでございまして、各施策もこの考え方に裏打ちされることが重要だと考えております。今後は、こうした取組がSDGsにつながるものであることを、ロゴなどを活用して積極的にPRすることで、区民に分かりやすい形でSDGsの見える化に取り組んでまいります。また、フードロス対策に限らず、SDGsの17の目標に関連する様々な分野におきまして、民間事業者等と連携し、その技術や知見、ノウハウを活かしながら、より効果的にSDGsの見える化を進め、区民や事業者のさらなる理解促進や行動変容を促してまいりたいと考えております。私からは以上です。

▶井上スポーツ・文化・国際都市部長

私からは、文化、平和に関する取組について、二つの質問にお答えいたします。

初めに、区の文化施設における今後の取組についてのご質問ですが、施設の展示につきましては、区に関する文化・歴史・芸術を網羅的に掘り下げ、資料の修復の時期や来館者アンケートなどを踏まえて総合的に決めております。郷土博物館では、特別展を毎年、考古、民族、歴史の3分野で順番に展開しており、今年度はお話のありました宝萊山古墳が東京都の史跡にされてから70周年、公園展示室の開室から30周年の節目に合わせ、考古分野の大勾玉展を選定いたしました。学芸員による展示解説や、子ども向けの体験コーナーとして勾玉づくりワークショップなどを行

いまして、歴史や文化を学んでいただく機会として、また五感を使って体験するなど、子どもから大人まで幅広い層に楽しんでいただける内容といたしました。

また、この9月に開館3周年を迎えた勝海舟記念館では、今年度、企画展を4回計画しております。資料の購入や修復を経た初公開資料、また、勝海舟が実際に使用した現物の展示など、リピーター醸成のため、新しいグッズの販売、また記念館のオリジナルのスタンプなどを製作し、子どもたちの来館にもつなげております。生誕200年となる令和5年には、昨年度実施しましたガバメントクラウドファンディングを活用し、来館者アンケートにおいて、勝海舟の活躍を支えた家族について知りたいなどの要望が多かった、家族に焦点を当てた企画展も検討しております。コロナ禍においても、それぞれの施設が創意工夫を凝らして事業を企画・実施し、区民の学びを後押しする取組が重要であると考えております。同時に、博物館には、日常空間として人が集い人をつなぐ、また、展示体験などで人を元気にするという効果も期待されております。今後も、文化の持つ心豊かな時間の醸成、想像力を育み生きる力を生み出し、人と人とのつながりや交流の輪を広げ、コミュニティが形成される事業をしっかりと推進してまいります。

次に、平和の大切さを区民に伝える取組についてのご質問です。区は、世界の恒久平和と人類の永遠の繁栄を願い、平和都市宣言を行いました。平和都市実現に向け着実に歩みを進めるため、平和都市宣言記念事業として、平和の記念式典、花火の祭典を実施しております。今年度は、花火の祭典については新型コロナ感染拡大防止のため中止し、平和の記念式典のみとしました。平和祈念コンサートでは、沖縄本土復帰50周年を記念し、沖縄の代表的な文化であるエイサーの演舞、また、ウクライナ情勢を憂慮し、ウクライナ民族楽器バンドウーラの奏者カテリーナさんによる演奏を行い、改めて平和の尊さを考えていただく機会として実施しました。

例年、8月上旬には平和・原爆のパネル展を区役所本庁舎3階展示コーナーにて、戦争の悲惨さと平和の尊さを伝え、さらには平和の大切さを学ぶ機会として、戦後生まれの世代が総人口の8割を超えている今、戦争を知らないと言われていた児童などを対象として、出前型で命と平和の大切さを伝える平和の映画キャラバンを区内児童館にて年間を通じて実施するほか、郷土博物館では戦時中の日用品などの展示をしております。

区民の平和に対する思いを醸成するためには、こうした取組を繰り返し繰り返し実施することが重要であると考えております。引き続き、区民の皆様とともに平和の大切さについて考え、次の世代に語り継ぎ、平和な世界を築いていくという平和都市宣言の実現に向けた取組をしっかりと進めてまいります。私からは以上でございます。

▶山田産業経済部長

私からは、産業に関する二つのご質問にお答えをいたします。

まず、働く姿の写真展の開催に関するご質問でございますが、これまで様々な行政機関や団体、企業などにより、働く姿をテーマとした写真展が開催されてございます。中でも規模の大きなものとしましては、大手求人サービス提供会社が主催をしている、全国各地の子どもたちから身の回りの働く大人の姿を撮影した写真を募集するコンテスト形式の催しが行われてございます。コロナ禍で昨年度は開催されず、今年は2年ぶりの開催に向け、現在、作品の準備が行われているとこのことでございます。このコンテストの開催趣旨は、子どもたちの目線で捉えた働く姿に対する感動や尊敬の念が込められた写真を通じ、働くことについて考える機会になればとされており、働く方々へエールを送るという議員のお考えと共通する部分も多いと考えます。

大田区は産業のまちでございます。様々な職場で働くお姿を写真展という形で広くお知らせすることは、これまでにない角度での産業支援として意義ある取組にもなり得ると考えてございます。現代では写真の募集もInstagramやフェイスブックなどを通じて簡単に行うこともできますし、集まった画像データをインターネット上で展示するような方法も可能と考えます。さらに、駅や区施設といった公共空間に展示をすることで、多くの区民の皆様に関心を持っていただくこともできると考えてございます。開催方法についても効果的な手法がいろいろ考えられます。既に実施されている取組との連携なども含めながら、今後の可能性を検討してまいりたいと考えてございます。

次に、経営支援相談窓口PiOフロントに関するご質問でございます。開設された本年4月1日から8月末までの稼働実績といたしましては、5か月間で782件の相談に対応してございます。具体的には、創業相談301件、経営全般に関する支援を行うビジネス相談が116件、ホームページ作成や効果的なチラシの作成支援などを行うデザイン相談73件と、内容が具体で明確なご相談に関しては、ご予約をいただいた上で相談をお受けしてまいりました。このほか、内容が具体的に定まっていない電話相談や窓口相談292件につきましては、協会職員が丁寧にお伺いをしコーディネートすることで、協会の多彩な支援メニューをご提供しているほか、協会では対応が困難な事案につきましては、東京商工会議所や東京都中小企業振興公社など、相談内容に対応できる団体にしっかりとつないでまいりました。そのほか、産業プラザの総合案内窓口として来館者のご案内機能も果たしてございます。また、PiOフロントで創業支援などを受けられた事業者の方々からの自分の成果をPRしたいという熱い思いにお応えするために、本年7月15日からはPiOフロントにショーケース機能を設置し、現在、6製品を1か月交代でPRする場をご提供してございます。

一方で、開設から間もないこともあり、PiOフロントをご存じない方も多くいると思われまます。PiOフロントの存在を通じ、区の積極的な事業者支援メニューを広く周知していくことは重要なこととございます。そのためにも、産業振興協会のホームページをさらに分かりやすく工夫を施すほか、協

会のツイッターやメールマガジンなどで最新情報をこれまで以上にタイムリーに発信していくなど、サービスの周知強化に取り組んでまいります。PiOフロントの認知度をより一層高め、一件でも多くの支援につなげることで、引き続き区内産業の発展に寄与してまいります。